

神戸市立工業高等専門学校創立50周年記念事業趣意書

昭和三十八年（一九六三年）六甲工業高等学校を母体として六甲工業高等専門学校が設立され、平成二十四年（二〇一二年）で創立五〇年を迎えます。六甲工業高等学校は原動機械科、精密機械科、電子工業科、工業化学科、建設工業科の四名五クラス、一学年二〇〇名でした。六甲工業高等専門学校は昭和四十一年神戸市立工業高等専門学校と改名され現在に至っています。設立当初、機械工学科（二クラス）、電気工学科（二クラス）、工業化学科、土木工学科（四学科六クラス、一学年二四〇名）でしたが、時代の変革に対応し、昭和六十三年電気工学科一クラスの廃止と電子工学科の設立、平成二年工業化学科を応用化学科へ改名、機械工学科にコース制（設計システムコース、システム制御コース）を導入、平成六年土木工学科を都市工学科へ改名しました。平成二年四月神戸研究学園都市への移転後、阪神淡路大震災を乗り越えた平成一〇年専攻科二専攻（電気電子工学専攻・定員八名、応用化学専攻・定員四名）を設置し、平成十二年さらに二専攻（機械システム工学専攻・定員八名、都市工学専攻・定員四名）を設置しました。本科卒業生約一万名、専攻科卒業生約三〇〇名を社会に送り出しました。平成十八年本科四、五年と専攻科一、二年の工学系複合プログラムが「JASSO（日本技術者教育認定機構）」に認定され、平成十九年「JASSO（神戸環境マネジメントシステム）」を認証取得、平成二十一年機関別認証評価において評価基準を満たしていることを認定されるなど、国内外にも認められる高専と発展してきました。

神戸市立工業高等専門学校同窓会は昭和五十二年、前身の六甲工業高等学校卒業生とともに歩む同窓会「六神会」という名称で、会員相互の親睦を図り、かつ母校の発展のため協力することを目的として設立され、総会等の開催、会員名簿および機関誌の発行など母校の発展のために必要な事業を行ってきました。五年ごとに会員名簿の発刊、年三回のCollegの送付（現在は年一回の六神会だよりの送付）を行うとともに、現役学生には学園祭への補助金や、ロボコン活動の支援を行ってきました。また、平成二年学校移転時には学生会館三階に六神会会議室を設置しました。平成十四年八月十六日六神会四〇周年記念パーティを西神オリエンタルで行いました。

平成二十四年で50周年を迎える時に当たり、神戸高専のさらなる発展を期するために「神戸市立工業高等専門学校創立50周年記念事業」を実施することとし、以下の事業を企画しました。

- ・ 学生支援に関する施設・設備の充実（記念ホールの建設）
- ・ 50周年記念誌の刊行
- ・ 50周年記念式典の開催（平成二十五年十月十二日予定）

つきましては、この記念事業を成功させるため、何卒この趣旨にご賛同いただきまして、卒業生各位はもとより、関係各位の絶大な支援をお願い申し上げます。

平成二十四年七月吉日

神戸市立工業高等専門学校創立50周年記念事業実行委員会
会長 神戸市立工業高等専門学校 校長 伊藤 文平
副会長 六神会 会長 菅野 孝

神戸市立工業高等専門学校創立50周年記念事業募金活動協力をお願い

同窓会会員の皆さま、関係各位の皆様には、平素より多大なご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

平成二十四年で神戸高専も設立五〇周年を迎えることとなりました。昭和三十六年「我が国経済の高度成長を背景に、産業界からの強い要望に応えるため、実践的技術者の養成を旨とし、中学校卒業者を入学資格とする五年制の高等教育機関として学校教育法の改正により、工業に関する高等専門学校を制度化」という法律の制定後、昭和三十八年六甲工業高等専門学校が設置されました。その後の五〇年間、専攻科の設置、平成十六年独立行政法人国立高等専門学校機構（高専機構）が発足し、国立五十五高専は一独立行政法人となりました。平成二十一年宮城、富山、香川、熊本地区のそれぞれ二つの高専は高度再編化により仙台、富山、香川、熊本高専となり、平成二十二年四月、機構高専五十一校（五十五キャンパス）となりました。昭和三十七年に設立された東京都立工業高専と東京都立航空高専は平成十八年統合・再編され都立産業技術高専となり、平成二〇年公立大学法人首都大学東京の下に法人化されました。昭和三十八年に設立された大阪府立工業高専も平成二十三年公立大学法人大阪府立大学の下に法人化されました。このような五〇年の歴史の中で神戸高専は日本で唯一の公立高専となりました。

公立高専として次の五〇年をさらに発展させるためにも、この記念事業を是非成功させたいと思っています。記念事業の内容は趣意書にも書かせていただいています。学生支援に関しましては記念ホールの設置も含まれています。なにとぞ皆様のご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。なお、記念ホールは完成後、神戸市に寄贈します。

募金活動は平成二十四年八月一日より平成二十五年七月末日まで実施予定です。

募金使途対象

- ・ 学生支援に関する施設・設備の充実（記念ホールの建設）

神戸市立工業高等専門学校創立50周年記念事業実行委員会
会長 神戸市立工業高等専門学校 校長 伊藤 文平
副会長 六神会 会長 菅野 孝



記念ホール完成予想図(一般科棟 1F ピロティ)

神戸市立工業高等専門学校創立50周年記念事業発起人

伊藤 文平
神戸市立工業高等専門学校 校長
菅野 孝
六神会 会長(土木工学科七回生)
林 秀彦
神戸市立工業高等専門学校事務室長

石塚 正彦 一般科 教授
石崎 繁利 機械工学科 教授
大淵 真一 応用化学科 教授
笠井 正三郎 電子工学科 教授
小林 滋 機械工学科 教授
佐藤 徹哉 電気工学科 准教授
赤対 秀明 機械工学科 教授
杉 廣志 応用化学科 教授
高科 豊 都市工学科 准教授
辻本 剛三 都市工学科 教授
津吉 彰 都市工学科 教授
中尾 幸一 都市工学科 教授
中川 一穂 一般科 教授
中辻 武 機械工学科 教授
橋本 涉一 都市工学科 教授
橋本 好幸 電子工学科 教授
前田 誠一郎 一般科 教授
道平 雅一 電気工学科 教授
森田 二朗 電気工学科 教授
八百 俊介 一般科 教授
若林 茂 電子工学科 教授

尼子 邦之 電気工学科 名誉教授
五辻 精一 機械工学科 名誉教授
岩田 信洋 応用化学科 名誉教授
大杉 彰 応用化学科 名誉教授
尾崎 進 電子工学科 名誉教授
尾崎 元泰 機械工学科 名誉教授
岸本 三男 一般科 名誉教授
北村 洋 電気工学科 名誉教授
日下部 重幸 都市工学科 名誉教授

嵯峨 晃 都市工学科 名誉教授
新家 徹 都市工学科 元教授
菅原 一孔 鳥取大学 教授
竹内 弘 電気工学科 名誉教授
田代 喜代治 機械工学科 名誉教授
長野 勝利 電子工学科 元教授
原田 紘一郎 都市工学科 元教授
林 昭博 電子工学科 名誉教授
福田 敬子 一般科 名誉教授
藤井 富朗 電気工学科 名誉教授
藤田 利明 一般科 名誉教授
古川 明 機械工学科 名誉教授
古田 菊夫 一般科 名誉教授
松田 忠重 電気工学科 名誉教授
松本 久司 応用化学科 名誉教授
松山 孝彦 都市工学科 元教授
宮井 幸男 電子工学科 元教授
宮脇 満雄 応用化学科 名誉教授
森本 義則 機械工学科 名誉教授
由良 力 一般科 名誉教授
吉永 元一 電気工学科 名誉教授

川田 照義 電気工学科一〇回生
金 隆成 機械工学科二十二回生
小西 隆博 工業化学科二十四回生
酒井 勇次 機械工学科二十二回生
坂田 英樹 機械工学科二十二回生
杉中 龍介 電子工学科十八回生
谷川 敏明 電気工学科一回生
千原 康博 機械工学科二十二回生
寺本 昭好 電気工学科一回生
塔筋 幸造 電気工学科八回生
野田 佳久 工業化学科十六回生
萩原 浩司 土木工学科十五回生
長谷 訓弘 機械工学科十一回生
林 結希子 応用化学科三十九回生
藤崎 仁美 電子工学科四回生
藤本 正彦 土木工学科十三回生
松本 康宏 電子工学科三回生
丸一 好巳 機械工学科四回生
宮本 弘一 土木工学科五回生
森本 高明 電気工学科六回生
安井 幸輝 応用化学科四十四回生

石塚 和也 機械工学科九回生
井上 昌弘 機械工学科十三回生
上月 由隆 機械工学科二十二回生
上野 範和 電子工学科一回生
大石 学 機械工学科六回生
大野 佳秀 応用化学科三十二回生
木本 恭平 土木工学科一回生
岡田 敏光 電子工学科十三回生
岡田 敏光 工業化学科二回生
金沢 正浩 工業化学科二十五回生

(順不同・敬称略)

寄付概要
募金目標額 3千万円
募金期間 平成二四年八月一日〜平成二五年七月末日
寄付金額 一口 5千円 (*何口でも結構です)
振込方法 同封の郵便振り込み用紙に必要事項をご記入の上
お払い込み下さい。

寄付に対する免税措置

この寄付金は、大阪国税局から平成二四年六月二六日付の大局課二法(審企第
五〇号及び課一個(審)第一六号により、国又は地方公共団体に対する寄付金に該当す
る旨の確認を受けています。
国又は地方公共団体に対する寄付金については、所得税法又は法人税法の定
めるところにより次の特例があります。

一・個人の場合

寄付金が2千円を超える場合には、その超える金額がその年の課税所
得金額から控除されます(ただし、年間総所得金額の四〇%が限度)。所轄
税務署で確定申告をされる方は、寄付金の領収書を送付しますのでお申
し出ください。

二・法人の場合

寄付金を拠出した事業年度において所得の金額の計算上、全額が損金
の額に算入されます。